

生産者インタビュー

子どもたちへのミニトマト収穫体験は、市内のミニトマト生産者のご協力により実施できています。
今回は、収穫体験にご協力いただいている生産者の皆さんに、お話を伺いました。

『おいしい!』の一言が、
体験を続ける力に



木村 謙一 さん

父の代から続けてきた収穫体験ですが、自分が担当することになった当初は、不安もありました。準備や対応が大変そうだったからです。でも実際に子どもたちが来て、採れたてのトマトを「おいしい!」と笑顔で頬張る姿を見て、その気持ちは大きく変わりました。

こうした子どもたちの感想を直接聞ける機会はなかなかありません。「まずいって言われたらどうしよう」と心配していましたが、みんなが笑顔で「おいしい!」と言ってくれ、本当にやって良かったなと心から思っています。

純粋な子どもの質問が、
自分の学びに



秋山 陽介 さん

収穫体験は、子どもたちだけでなく、生産者にとっても学びの多い時間です。「どうして赤いの?」「どうして甘いのか?」といった素朴な質問に、分かりやすく答え、次はどんな質問が飛んでくるのか、子どもたちの素直な反応を見るのも楽しみです。

子どもたちには、自分で収穫し採れたてのおいしさを味わう一連の体験を通して、トマトの魅力を感じ、「楽しかった」「また来たい」と思ってもらえたらうれしいです。

suke3farmインスタで
情報発信中▶



食の大切さを伝える、
かけがえのない体験



木村 保雄 さん

子どもたちから「おいしかった」「トマトが苦手だったけれど食べられるようになった」といった声を直接聞くと、「作り続けてきて良かった」と心から思います。子どもたちの喜び姿は、私たち生産者にとって何よりの励みです。

今は何でも簡単に買える時代ですが、実際に収穫を体験することで、食べ物がどのように育てられているのか、食の大切さを少しでも感じてもらえたらうれしいですね。子どもたちと直接触れ合えるこの機会は、生産者にとっても貴重な時間です。これからも長く続けてほしいと思っています。

夏
を代表する北斗市のミニトマト。

甘くて食べやすい『アイコ』を中心に、市内では多くの農家が丹精込めて育てています。

北斗市農業振興対策協議会では、地元野菜がどうやって育てられているのか興味・関心を持ってもらおうと、毎年、市内生産者の協力を得て、ミニトマト収穫体験を行っています。

ビニールハウスの中で、真っ赤に実ったミニトマトを一つひとつ丁寧に収穫しながら、採れたてを頬張る子どもたち。「甘くておいしい!」と、笑顔があふれます。

ハウスで味わった採れたてのミニトマトの甘さや、生産者から教わった収穫のコツ。そんな何気ない体験は、子どもたちの心に夏の思い出として残っていきます。その思い出が、このまの農業に目を向け、ふるさとへの愛着を深めるきっかけになっていくのかもしれない。

北斗市の 夏を彩る ミニトマト

太陽の恵みをたっぷり受けて
甘くておいしいミニトマトが育ちました

